

様式(細則 5-2)

令和元年 9月10日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察・**研修**)を(実施・**受講**)したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 令和元年8月31日(土) 13時30分～16時50分
- 2、研修内容 「安来認知症フォーラム」
- 3、研 修 先 安来市(アルテピア 安来市総合文化センター)
- 4、調査経費 交通費 11,540円(JR・タクシー)
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



「安来認知症フォーラム」出席のため

令和元年9月10日

- 1 日 時 令和元年8月31日（土）13時30分～16時50分
- 2 場 所 安来市（アルテピア 安来市総合文化センター）
- 3 講 演 「認知症予防の最前線」鳥取大学医学部保健学科 浦上克哉 教授
「認知症予防の報告」鳥取県琴浦町地域包括支援センター 林 真紀 保健師
- 4 概 要
 - ① （浦上教授）認知症予防は、第1次 予防病気の発症予防、第2次 予防病気の早期発見・病気の早期治療と早期対応、第3次 予防病気の進行防止、からなり認知症予防は発症予防だけではなく、病気になった人の進行防止も予防である。
 - ② 認知症の共生は認知症の人が安心して暮らせる社会の実現、バリアフリー社会の実現であり、政府は、70歳代の人を10年間で1歳発症を遅らせることを目標としており、認知症予防を超高齢社会の日本はリーダーシップを持って取り組むべきである。
 - ③ 認知症は修正可能な要因が35%、修正不可能な要因が65%とされ、今後、修正可能な要因が増えていくと考えられ、認知症発症の危険因子は、若年者で低い教育レベル、中年期では難聴・高血圧・肥満、老年期では糖尿病・社会的孤立・運動不足・抑うつ・喫煙、などがあるように、認知症予防の対策は、年代ごとで異なり認知症予防は単純なものではない。
 - ④ 鳥取県琴浦町では、軽度認知障害は軽度の認知症ではなく認知症の前段階とし、軽度認知障害の状態ですら予防対策を打てば、5割は認知症にならないとされ、65歳以上の介護保険を受けていない全住民を対象とし、もの忘れ健診と予防教室などを組み合わせて実施している。
 - ⑤ （林保健師）琴浦町の現状は人口17,392人（55,342）、65歳以上人口6,186人（19,747）、高齢化率35・57%（35・7）、要介護者数1,008人（4,719）、介護認定率16・27%（23・9）、世帯数6,336世帯（24,498）、独居高齢者世帯1,201世帯（2,934）、高齢者のみ世帯874世帯（3,748）介護保険料月額6,000円（6,980）である。
（※浜田市と比べると介護認定率、介護保険料の差は歴然としている。（ ）は浜田市）
 - ⑥ 琴浦町では平成15年から取り組んでおり、認知症予防と早期発見・治療が大切なことを町民に周知したことで早期の相談が寄せられるようになり、地域が主体となって軽度認知症障害予防教室や認知症カフェなどが地域に広がっている。
 - ⑦ 予防教室は介護保険への移行を防ぎ、重症化予防につながっており、今後も認知症に対する正しい理解と啓発を行い、地域全体で安心して暮らせるまち、認知症予防のできるまちづくりを推進したい。
- 5 所 見
 - ① 安来市では、安来第一病院が地域貢献事業としてこのフォーラムを主催するなど、病院が能動的に取り組んでおり、浜田市においても病院と連携した取り組みなどを促すことが重要である。
 - ② 浜田市では「認知症の人にやさしいまちづくり条例」を制定する段階であり、条例制定後の具体的な取り組みを琴浦町の例を参考として、市民総参加の地域ぐるみの取り組みとなるよう、議会としても、進捗状況のチェックや必要に応じて提言などを行う必要がある。
 - ③ 市で取り組む、まちづくり推進委員会、まちづくり総合交付金、地区社会福祉協議会、高齢者クラブ、高齢者サロンなどが一層の有機的な連携を図るとともに、認知症サポーター、地区にある各種役員などの自主的で主体的な活動など参加体制をつくる必要がある。